

学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名：城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成24年 6月	
学年： 2年 1組	教科：英語科
単元名：Unit 4 Homestay in the United State Reading for Communication	
ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞「have to + 動詞の原型」「must+ 動詞の原型」「will+ 動詞の原型」の用法を理解し、適切な場面で用いることができる。 ・ホームステイについての題材を読み、自分の考えを伝えることができる。 	
単元全体の流れ	
夏休みにアメリカへホームステイに行くさくらの経験や絵里、カルロがホームステイで困ったことについて相談をしている英文を通して、アメリカと日本との文化の違いに着目することができる。また、ホームステイにおける「していること」「してはならないこと」等、助動詞の意味を理解し、自分の意見を書く時に適切に用いることができるようにする。	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
絵里やカルロの相談について、友達立場になってアドバイスを4文の英語で書くことができる。	
情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用した者	
<input type="checkbox"/> 教員 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒	
を活用する目的	
<input type="checkbox"/> 課題の提示 <input type="checkbox"/> 動機付け <input checked="" type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化 <input type="checkbox"/> 教員の説明 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒による説明 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動 <input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較 <input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用したコンテンツ	
デジタル教材	
活用した機器	
<input checked="" type="checkbox"/> IWB <input checked="" type="checkbox"/> タブレットPC <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他（ ）	

1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
1 絵里とカルロのホームステイへの相談について内容を理解しているか確かめる。	英語で簡単に振り返りをする Q a n d A	
2 班で絵里かカルロの相談に答える英文を書く	班で重ならないようにする	
3 みんなの意見をマッピングして出す		
4 班で英文をまとめる	必ず1文は新出の助動詞を使うように指示する	
5 発表する	他の班の発表についてコメントをさせる	

<協働学習の実施状況>

- 生徒が相互に教え合う場面があった 数名が一緒に学び合う場面があった
 数名が協力したり助け合ったりする場面があった 数名が話し合う場面があった
 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった
 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった
 ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

個々の生徒で、デジタル教材、教科書の音声を活用し自分の音声と比較できる。

(2) 活用により期待される効果

繰り返し聞くことで、正確な音声が入身につくこと。

3. 実践上の課題

自分の音声を録音でき、オリジナルと比較ができるとよい。
自分の音声及びオリジナルの音声の音声波形で比較ができるとよい。

※本報告は、2頁を超えて作成しても構わない。

※本報告とあわせて、授業の動画や写真を提出する際は、Webでの公開など広く使用されることも考えられることから、保護者の了解を得るなど必要な対応を行うこと。